

おでかけだより

夏号 NO. 62

2019年7月1日



発行：NPO法人 おでかけサービス杉並 発行責任者：樋口 蓉子
〒167-0051 杉並区荻窪5-18-11サニーシティ荻窪103
TEL 03-6425-8584 FAX 03-5397-1755
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~npo-odekake/>

おでかけサービスの活動実績を報告します!

おでかけサービス杉並では、去る5月26日に第15回通常総会を行いました。以下、移動サービス事業のこれまでの主な活動指標についてご報告します。



◆ 移動サービス実施回数（トリップ数）について

2011年度	2774回	2015年度	4081回
2012年度	3115回	2016年度	4859回
2013年度	3883回	2017年度	5261回
2014年度	3521回	2018年度	5453回

注1 トリップ数は乗車から降車までを1トリップと数えます。往復の利用があった場合は2トリップとなります。

注2 2018年に新しく「グローイング・ピープルズ・ウィル」が福祉有償運送事業に参入し（事業名「アンサンブル」）、杉並区の福祉有償運送団体は7団体となった。

◆ 各年度末の利用会員数の推移

2011年度	147人	2015年度	206人
2012年度	167人	2016年度	221人
2013年度	161人	2017年度	226人
2014年度	175人	2018年度	243人

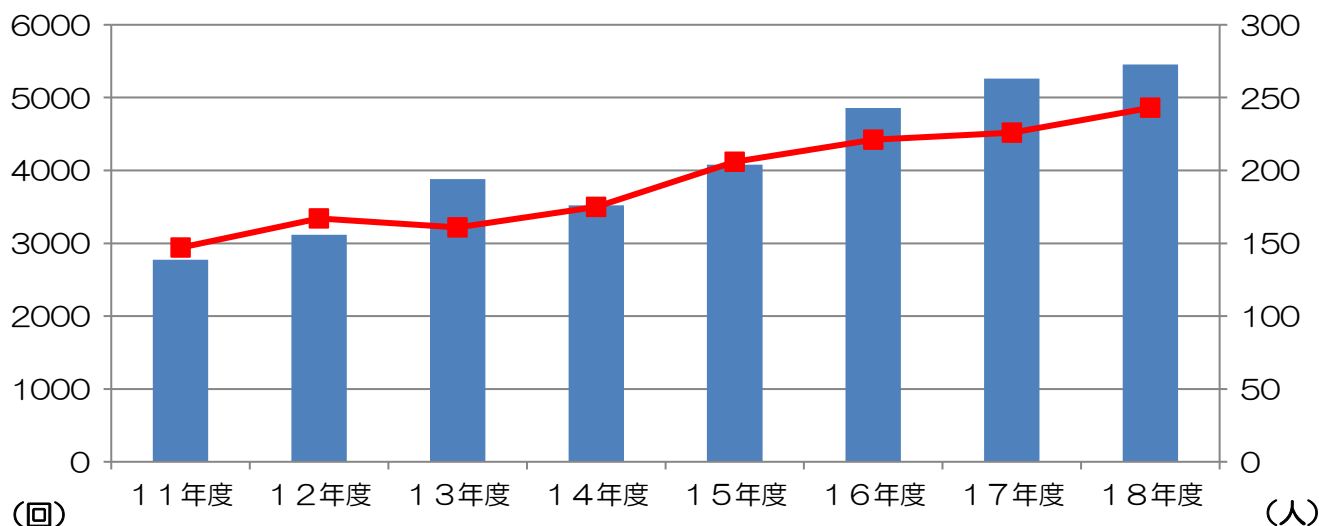


◆ その他

- (1) 2018年度のトリップ数は5,453回で、目標とした5,300回を上回りました。トリップ数は増加しましたが、短距離の利用が増えたために対価収入は2017年度実績を僅かに下回りました。
- (2) 2017年度末に226人であった利用会員数は、2018年度末には243人に増加しました。
- (3) トリップ数の増加に伴い、コーディネーターの業務が飽和状態に近づいており、この緩和策も兼ねて、2019年度には非常勤職員の1名増加を図ります。

■ 移動サービス実施回数（トリップ数）と利用会員数

■ トリップ数
■ 利用会員数





外出支援サービスの利用者として思うこと

池部 弘子さん

2011年から車椅子の息子が利用させていただいております。
いつもありがとうございます。

特別仕様の車いすではタクシーに積めないことから、息子のために40歳を過ぎて免許を取得。「私には運転のセンスがない」ことを自覚しながらも、必要最低限の病院や学校などのために運転していました。なにせ免許取りたてで済美養護学校や光ホームなど、狭い道をヒヤヒヤしながら運転していたので、あのころは運転の緊張と育児・介護疲れも重なって、フラフラな状態のまま、また次の日に病院へ運転・・・なんてこともあり、真面目に「今日も死にませんように！」と祈りながら出かけたものです。なのでこちらを利用させていただくことができ、ちょっと遠出もできて、本当に助かっています。

中でも思い出すのは、夕方息子の体調が急変して救急搬送され、治療が終わるのが夜8時すぎになったときのこと。家族は仕事で不在だったり、飲酒していたりで運転者がいません。そうです！ 救急車。行きは楽でも、帰りは自力。あの車いすを積めるタクシーがないのです。

あの時は急な依頼にも関わらず、なんとかドライバーを探してくださって無事に帰宅することができましたが、折り返しの電話を待つ間の心細くて不安だったこと。「あってよかった！ おでかけサービス杉並」感謝。感謝です。

話は変わりますが、いろいろな意味で外出に困難な方が増えてきています。ですから、『もび～る』のような外出に関する相談窓口があることをもっと周知すること。それは、実際利用している私たちが今困っている人や、困りそうな人に出会ったら、お知らせすることも良いと思います。

運行員不足とのことですが、区民同士の助け合いの活動としてご協力いただける方がもっと増えますように。私は苦手な運転以外のことで微力ながら協力させていただけたらと思います。



この度、利用者のTさんより「6年間の利用のお礼と、これからもよろしく」との事で、災害多発時代の必需品『緊急脱出用ハンマー』寄付のお申し出をいただきました。これは、災害や事故などで万一車に閉じ込められた場合でも、ガラスを割りシートベルトを切断して車から脱出できるという優れたものです。運転協力員の皆さんへもという事でありがたく頂戴し、実際に使う事がないことを祈りお守り代わりとして各車に常備させていただきました。Tさんありがとうございました。



令和の新元号にもすっかり馴染み、コーディネーターとして初めての10日間の休みという恩恵も受け新年度の活動を始めています。先の通常総会で今年度は「事業環境が大きく変化していく年」と位置付けており、今後の利用者の増加による事業の拡大や、事業を継続していくための将来的な世代交代等も見据え、新人の育成も始まっています。

また煩雑な移動サービス部門の業務を洗い出し、誰もがかわられるようにしていくという課題も今年度の柱です。

そしてもちろん運転協力員の方たちが気持ちよく活動できるよう、利用者とのコーディネートにも気が抜けません(笑)。



コーディネーター 野口 恭子